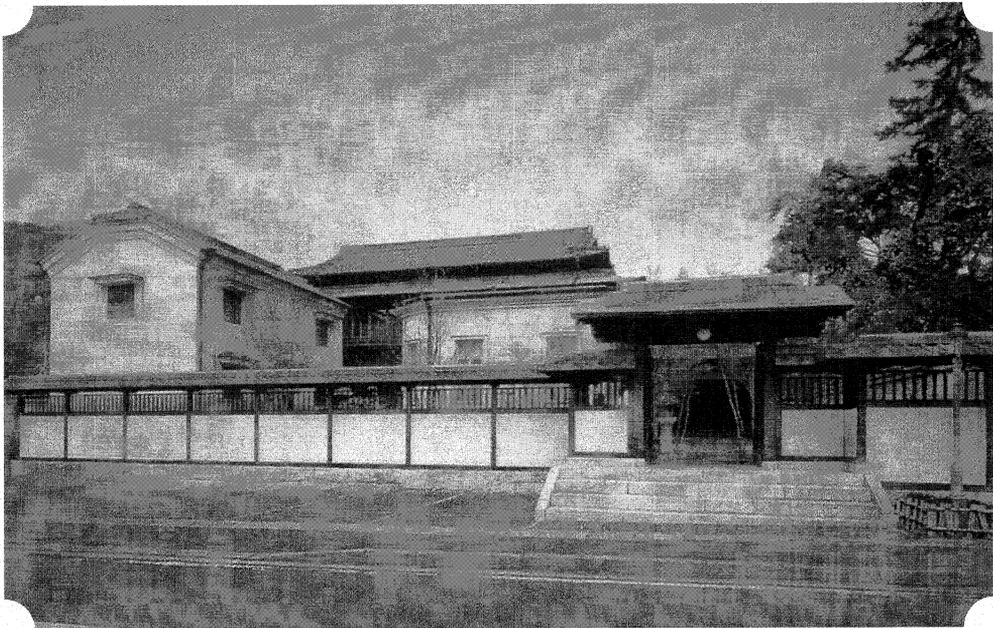


2015

別府史談

第二十八号



別府史談会

(表紙写真) — 聴潮閣「佐藤溪美術館」

別府市青山町9-45に聴潮閣「佐藤溪美術館」がある。

抑、聴潮閣は、別府市浜町17、朝見川に架る「藤助橋」に由来の大阪の山本藤助が、大正7年に別府土地信託株式会社を設立し、別府松原海岸埋立事業を昭和3年事業完成までに約3万坪の埋立を行った。

この埋立地の一角、別府市大字浜脇4038番32(現・別府市浜脇1丁目3番1号)を、高橋欽哉が昭和4年7月5日に用地を取得し、同年住宅兼迎賓館として新築したものである。その後、平成元年1月に現在地に移築した。

聴潮閣高橋記念館として活用して来たが、平成25年1月「佐藤溪美術館」として再スタートした。

本建築は木造2階建入母屋造り棧瓦葺きで、台湾桧の木材で造られた昭和初期の高級住宅である。門を入ると堂々たる2間間口の式台付玄関がある。正面棟の鬼瓦には一富士、二波、三紅葉が浮き彫りにされており、聴潮閣と名付けられたこの建物への施主の願いが込められている。

玄関左手の応接間はアールデコ風で、白大理石のマントルピースに乳白色のペンダントライトやステンドグラスの窓、応接セットにいたるまで、住宅文化の豊かさを感じさせる。和風の棟は、それぞれ十帖単位の部屋に変化をつけ、特に2階は三間続きで、襖を開けば二十七帖の大広間になる。

東西に勾欄付の掃き出し縁を設け、多目的に使われている。

さらに、浴室のステンドグラスは、日本初のステンドグラス作家として活躍した小川三知(さんち)の作品で、魚をモチーフにした繊細で日本画的な作品は一見である。

棟梁・平野介治、監督・荒金作八(元別府市長荒金啓治の養父)。平成13年8月28日、聴潮閣、主屋、洋館は国登録有形文化財(建造物)に登録、加えて平成18年大分合同新聞創刊120年を記念し認定の「おおいた遺産」に選定された。

[文責：外山 健一]